

みどりみらい 2nd SEASON ぐんじとしのりの議会報告

2006/04/20 Vol. 85 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362
E-MAIL ID / mmirai@kitemachi.com

印西市議会/平成 18 年第 1 回定例会報告 (4)

～ 2007 年問題と印西市を語る

いつもお世話になっております。印西市議会第 1 回定例会 (3 月議会) は、3 月 23 日 (木) までの会期にて行われ、平成 18 年度一般会計予算案等 36 議案を審議し、閉会しました。今回から、3 月議会での私からの一般質問、市執行部からの回答を中心にご報告していきたいと思っております。

3/1 (水曜日) に、一般質問に立ちました。

以下、市当局の回答です。

2. 2007 年問題について

団塊の世代と言われる年代の方々が退職の時期を向かえ、印西市を始め日本の企業も、社会全般にこれまで経験のない転機を迎えています。一方、少子・高齢化時代がしばらく続くと考えられる現在、様々な課題を印西市としてはどのように考え、対策をとっていくのだろうか。

(1) 印西市内全域において団塊の世代と言われている方々はどの程度住んでいるのか。
また、概ね地区ごとの比率はどのようになっているか。

(回答 / 総務部長) 団塊の世代といわれます昭和 22 年から 24 年までの生まれの方々は、平成 17 年 12 月末現在で、印西市に 3367 人住んでおります。また、地区ごとの比率でございますが、中央駅地区 48%、小林地区 13%、木下地区 12%、大森地区同じく 12%、船穂地区 6%、牧の原地区同じく 6%、永治地区 3% となっております。

(2) 印西市役所において団塊の世代と言われ、退職する職員数はどの位になるのか。
その割合は現在の全職員に対してどのくらいの割合か。

(回答 / 総務部長) 団塊の世代の生まれの職員は、合計で 30 人おります。特別職を除く一般職の職員は現在、524 人でございますので、割合としては、約 6 パーセントとなります。

なお、団塊の世代は、本市職員の各年代における職員数の平均値と比較しますと、平均値よりも約 30 パーセント少なく、社会的に問題となっている団塊の世代の大量退職は、本市において該当しないものと考えております。

(3) 民間企業で働いていて、今後退職する貴重な能力の持ち主の何らかの活用策が考えられないものか。

(回答 / 総務部長) 団塊の世代といわれる方々は、わが国の高度成長を支える企業戦士の中核として、また、地域や家庭を支える中心的な存在として活躍してきており、蓄積されたその豊富な知識や経験、あるいは技能など、こうした能力を活用させていただくことは、市にとりまして大変有益なことであると考えております。

また、この世代は、多くのベンチャー創業者を輩出しており、周りの人を巻き込んでいくリーダーシップを持ち、次の世代の育成といった面において、その意欲は旺盛であるといわれております。こうした力を、例えば転職や創業のアドバイザーとして指導支援していただく、あるいは自主的な NPO 組織の設立に貢献していただくとか、いろいろな面で活躍が期待できるのではないかと考えられます。また、自分の知識や技能を人に伝えたいという人には、学校での外部講師や生涯学習の講座で指導していただいたりすることも、活用策の一つではないかと思われまます。

何れにいたしましても、市が推進しております、市民参画や市民協働体制づくりの一翼を、団塊世代の皆さんは担っていただけると存じますので、さまざまな面で活用させていただきようと考えてまいりたいと思っております。

(ぐんじとしのりより市民の皆様へ/再質問と執行部からの回答)

日本の平均寿命は男性が世界第2位の 78.36 歳、女性は連続世界1位の 85.33 歳と毎年着実に伸びており、60 歳の定年退職と言ってもまだまだ元気で地域、社会の担い手として活躍に期待できます。

「団塊世代」のパワーを印西市では何にポイントをおいて、どう受け止めて今後の施策・事業に生かしていくのか、また「団塊世代」の人々をいかに地域社会と融合させるのかを今回は一般質問として聞いていきたいと考えました。

「アクティブシニア」をご存知でしょうか。

特に決まった定義はありませんが、代表的なものとして以下のような定義がされているようです。

- = 「年齢をあまり意識しない、活動的な層。行動的で知的好奇心にあふれ、若者にはまだまだ負けまいと自負するシニア層」(JR東日本 ジバング倶楽部事務局)
- = 「団塊の世代が中心となる 50～64 歳までの元気で自分なりの価値観を大切にしている生活者」(『アクティブシニア市場の動向と将来展望』(株)富士経済大阪マーケティング本部)

この紙面では、「年齢を意識せず生き生きと前向きに人生を楽しむ 50 歳以上の人」を言うと考えていただければと思います。

(執行部への再質問)

NT中央地区を中心に大量のアクティブシニアが出現します。具体的な市の施策として、今後どのようにとりあげているのでしょうか。

(回答/保健福祉部長)第3期保健福祉計画、介護保険事業計画において、就労関係に関する事項で、就労の場として題しまして高齢者就労支援センターやシルバー人材センターの充実について盛り込むこととしていきます。やはり、団塊の世代の貴重な人材をどのように生かしていくか、今後の高齢社会に向けた大きな課題ではありますが、この団塊の世代の力を、これから地域の力として、貴重な財産というように認識しております。

(ぐんじとしのりより市民の皆様へ/再質問とその回答に関して)

議会では時間の関係でこの項目についてはこれ以上踏み込むことはできませんが、私は現状の印西市では団塊の世代の貴重な人材を活用できないと考えています。例えば、団塊の世代の方々の経験を生かすようなシステムは全くなく、高齢者就労支援センターやシルバー人材センターに対する不満や苦情が私の元に寄せられているのが現状です。勿論、今までと同じ条件や環境のもと地域社会で生活していくことは難しいと考えますが印西市としても一つの施策として市民とともに早急に作り上げていただきたいと思います。今回の紙面で引き続き「2007年問題と印西市」を取上げたいと思います。

印西市 平成 18 年度主要事業のご紹介(1)

多くの皆様から市の広報だけでは内容がよくわからないので説明をしてほしいとご要望をいただきました。今回は学校に関係する2つの主要事業についてご紹介したいと思います。

- * **楽器整備事業(予算 小学校 955万7千円:中学校 1159万円 ~小学校・中学校とも新規事業)**
学校での音楽教育の充実を図り、児童・生徒の情操を育むとともに豊かな人間性を培う。

小学校 市内13校からの要望を調査し、ピアノ*と打楽器および大型金管楽器を購入するものです
中学校 市内6校からの要望を調査し、ピアノ*と木管および大型金管楽器を購入するものです。
(ピアノの購入は主として30年を経過した学校が中心となります。)

- * **防犯施設設置事業(予算 小学校 3161万9千円~継続事業:中学校 938万7千円~新規事業)**
安全・安心な学校づくりを進める上で、新年度は、門扉、フェンス、インターフォン、案内板等による物理的にも心理的にも視覚や知覚に訴えた学校の「領域性の確保」に努め、学校内への不審者の侵入を未然に防ぎ、子供たちの安全を確保するものです。

いつもご声援、ご支援ありがとうございます。この紙面へのご意見に限らず、市政全般へのご提言、ご批判、皆様からのご相談はいつでも承ります。あるべき市政の姿を求めて皆様と手を携えていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

ぐんじとしのり